

# 古着支援プロジェクト 第22回 2014年度募集要項

2014年も以下の要領に従い古着支援を実施いたします。  
皆様のご協力を何卒宜しくお願い致します。

支援先	タイのミャンマー難民キャンプ ヨルダンのシリア難民
古着の種類	ズボン、Tシャツ、Yシャツ、トレーナー、ジャージ、 カーディガン、セーターなど動きやすい普段着 を中心に募集 ※夏服・冬服は問いません。 ※大人用・子供用は問いません。 (乳幼児の服は特に重宝します。) ※洗った状態で、コンディションの良いもの ※下着・靴下不可
受付期間	2014年6月2日(月)～12日(木)
送付先	〒140-0003 東京都品川区八潮2-9 大井物流センター ジャパンエクスプレス内 わかちあいプロジェクト ☎03-3790-9672 ※問合せ先ではありません。 ※平日17時半までであれば持込みも可
送り方	古着を段ボール(サイズの上限=縦・横・高さの 合計が150cm以内)に入れて上記までお送りく ださい。
注意点	日本から現地までのコンテナ輸送費、通関費用、 現地の運搬費用等に充てるため、古着1箱当 たり1500円の募金を頂いています。 募金は衣類に同梱せず、下記郵便振替口座で お受けいたします(当団体HPよりカード決済可)。  郵便振替口座 一般社団法人わかちあいプロジェクト募金 00120-4-386390
現地 受入団体	TBC (The Border Consortium) LWF (The Lutheran World Federation)

## 募金のお願い

2014年も以下の内容でご支援をお  
願いいたします。

- 古着支援  
(詳細は左記の通り)  
目標数量 1万箱
- シリア難民支援  
目標募金額 300万円
- ミャンマー教育支援  
目標募金額 100万円
- 南スーダン子ども支援  
目標募金額 100万円

### 募金の送金先

郵便振替口座  
一般社団法人わかちあい  
プロジェクト募金  
00120-4-386390



わかちあいプロジェクト

フェアトレードは世界の豊かさを分かちあい共生する経済のしくみです

# わかちあい プロジェクト

## NEWS No.29

### December 2013

すし詰め状態で学ぶ子供たち



## 「わたしも学校に行きたい」 シリア難民の子供たち

代表理事 松木 傑

2011年チュニジアに始まった「アラブの春」は、リビア、エジプトと拡大し、シリアでも反政府運動が始まり、現在の内戦状況に至っています。シリアでは既に11万人以上の死者が出、320万人以上が難民となり周辺国に逃れています。そのうちヨルダンには現在55万人の難民を受け入れ、70%以上は国境周辺の街で救援物資の配布を受けながら生活しています。長期化する状況の中で、私たちも既にアンマンに事務所を置いて支援活動を行っているLWF(ルーテル世界連盟)と協力して支援に取り組むことにいたしました。

11月24日夜の便で成田を出発、翌25日昼前にヨルダンの首都アンマンに到着しました。7つの丘があり、坂が多く、砂埃の舞う街です。丘の上にローマ時代の石柱が立ち、その遺跡は7000年の歴史をもち、ヨルダン川の向かいのエリコと同じ時代から続く町であることを示しています。

26日朝9時にアンマンを出発し、支援を予定しているシリアとの国境近くの街イルビッドに到着、地方政府の教育省を訪問し、責任者の方と支援予定の学校「アイン・ペイシック学校」を視察しました。同校は男子校で、6歳～13歳の子供たち600人が通っています。そのうちシリア難民の子供は35人で、他の180人の難民の子供たちは教室が不足しているために学校に通うことができません。現在、教室の増築が求められており、2教室の



建て増しで500万円が必要です。また、毎年6月に集めている古着を今年はシリア難民のためにも送ることを予定しています。何卒、ご支援のほどよろしく願いいたします。

わかちあいプロジェクトNEWS No.29  
December 2013 (年1回発行)



一般社団法人わかちあいプロジェクト

〒130-0022  
東京都墨田区江東橋5-3-1  
TEL: 03-3634-7809  
FAX: 03-3634-7808  
Email: order@wakachiai.com  
URL: http://www.wakachiai.org



[郵便振替口座]  
一般社団法人わかちあいプロジェクト募金  
00120-4-386390 (募金用)

一般社団法人わかちあいプロジェクト  
00150-7-418645 (代金支払い用)

# 日本で集めた衣類、ミャンマー難民のもとへ

2013年度の古着支援プロジェクトでは皆様に合計1万箱を超える沢山の衣類をご寄付頂き、タイにあるミャンマー難民キャンプと南スーダンに届けました。

8月下旬にスタッフがミャンマー難民キャンプを訪問し古着の難民への分配に立ち会いましたので、その際の現地レポートをご紹介します。

2013年8月27日、お経やイスラムのアザーンにさえも似た、低音で伸びのあるエキゾチックな唄声が大きく辺りに響き渡る中、何台もの4WD車が夢と希望を乗せて難民キャンプを後にしました。初老男性が唄っていたその唄は、旅立つ人を祝い励ますものだと思います。

ストライプのレジャーシート地でできた薄手の大きな袋にありったけの荷物が詰められ、それらと共におよそ10家族が次々と荷台に乗り込みました。見送る人々は彼らに笑顔で声をかけていきます。向かう先はアメリカ合衆国。第三国定住を決めたミャンマー難民の出発の時です。

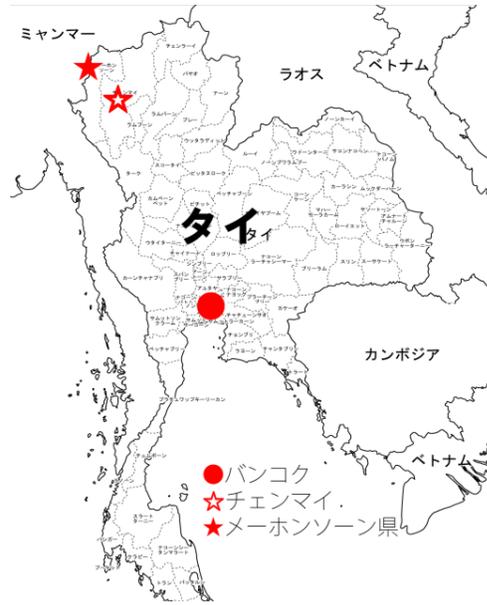


↑アメリカへ向け出発する難民達と見送る者達

「洋服は普段なかなか手に入らないので、日本の皆さんが送ってくださって、とても助かっています。」古着を受け取ったばかりの難民女性が柔らかな笑顔でそう言いました。

2日目は分配の現場に再び立ち会った後、冒頭の第三国定住でアメリカに行く10家族の旅立ちの瞬間に遭遇した私達。新たな土地での彼らの幸せをただただ祈るばかりです。

首都バンコクでは、本プロジェクトで連携し活動しているタイのNGO「TBC」本部を訪問、今後のニーズ等について協議を行いました。衣類の支援は現状では多くないためとても重宝し、来年も間違いなくニーズがあること、日本からの古着は小柄なミャンマーの人達にフィットすること、いつも古着が入った段ボールの状態を見ては、日本人の几帳面で丁寧な国民性を感じることに、東日本大震災後も変わらず支援を継続してくれたことに心を打たれたこと…。現地で頂いた沢山の感謝の気持ち



日本で集まった衣類のミャンマー難民への分配の場に立ち会うため、雨季真っただ中のタイ北部メーホンソン県の難民キャンプに私達が到着したのは8月26日。滞在した2日間とも決まって夕方に雨が降り、そのたびに草木は艶やかに生まれ変わります。難民キャンプまでの道のり、増水し赤茶けた土が溶け出した川を、息を凝らしながら何度も渡りました。

古着はキャンプ内の倉庫で難民の方々に分配されます。分配担当者達が男女別、大人用と子供用などに分け、難民達の名前を呼びます。家族構成を見ながら、その家の人達に合うと思われる古着が1着ずつ配られます。古着を受け取った人はその記録として名簿に拇印を押します。受け取った古着をその場で体に当ててみたり、着てみたり、知り合いの人達と笑顔で見せ合ったりと、ほのぼのと心温まる光景を目の当たりにしました。



↑幼い子と夫のものをあわせた家族3人分の古着を受け取り、笑顔を見せる難民女性

ちは、そのままご支援くださった日本の皆様にお渡ししたいと思います。本当にありがとうございました。

※難民達が安全に本国に帰ることが出来るまではあと2~3年かかるとのことです。

# 南スーダンに古着到着/子ども支援について

わかちあいプロジェクトがかつて支援したケニアのカクマ難民キャンプで難民として暮らしていたDavid(デイビッド)が、現在は南スーダンの戦争孤児を救う活動を行っています。

わかちあいプロジェクトは6月の古着支援で集まった衣類の一部をDavidの活動先に送ったほか、「南スーダン子ども支援」として、Davidの活動を支援しています。

スーダン内戦によって発生した約3万人の難民を保護する目的で1992年に設立されたケニアの「カクマ難民キャンプ」。わかちあいプロジェクトは1993年に初めて同キャンプに古着及び食料の支援を行って以来、スタッフやボランティアを定期的に送り現地の教育施設建設等に携わるなどしてきました。

そして今、元カクマ難民のDavidがオーストラリアに移住して渡り、メルボルンで仲間たちとNGO「Peace Palette(ピース・パレット)」を設立し、2011年にアフリカ大陸54番目の国家として誕生した南スーダンの戦争孤児のストリートチルドレンを救う目的でセンターを作り、子供達の安全を守る活動などを行っています。

今回、タイのミャンマー難民キャンプと同様にDavidの活動先に古着を送っておりましたが、長旅を無事に乗り越え、南スーダンの首都ジュバに到着したとのことです。



↑ジュバに到着した古着入りのコンテナ



↑2012年度のわかちあいプロジェクトからの支援で購入したマットレスを運ぶ子供達

Davidの活動先への「子ども支援」で昨年度皆様より頂いた募金は、現地の子供達のマットレスを購入する費用として使われました。今回頂いた募金(AU\$3146.90)では子供達の蚊帳(かや)を購入する予定とのことです。南スーダンの募金にご協力くださった皆様、本当にありがとうございました。

南スーダンの人々が自分たちの力で持続可能な社会を確保できるよう、Davidたちは引き続き活動を行います。わかちあいプロジェクトとしても出来る限りの協力をしていきたいと考えております。皆様の変わらぬご支援を宜しくお願い致します。

## ミャンマー教育支援 ご協力をお願い

ミャンマー教育支援は、一人のミャンマー人女性の「ミャンマー山岳民のために学生寮を作りたい!」という夢の実現に協力するプロジェクトです。

(学)アジア学院(栃木県)の元研修生、ミャーさん。彼女の夢は、教育施設が少ないミャンマー山岳民のために学生寮を作ることです。現地では中学校に行くために町の学校まで行かなくてはならず、そのためには学生寮が必要です。

この地域はタイ国境に逃げて難民として生活しているカレン族の出身地域であり、学生寮を作ることは内戦の孤児たちに教育機会を与えることにも繋がります。皆様のご協力をお願いいたします。



↑ミャーさんの活動先の子供たち